

# 経営体質強化と、地元とともに繁栄する 地元食材活用型の事業成長戦略！

＝久万高原町の地域特性を活かした久万清流米での米粉スイーツの製造販売＝

支援機関：愛媛県商工会連合会

支援内容：新商品開発支援

支援区分：地域資源活用

## 有限会社 久梨芙



店舗外観

### 【企業概要】

社名：有限会社 久梨芙  
代表者：代表取締役 田村 信介  
業種：菓子小売業（製造小売）  
所在地：上浮穴郡久万高原町久万261番地2  
資本金：3,000,000円  
設立：平成11年12月  
従業員：5名

Information

### ● 当社設立の背景、新規事業化の動機

当社は、四国の軽井沢と呼ばれる標高500メートルの、夏でも冷涼で空気・水が澄みきった自然環境と県都・松山市から50分という立地条件を活かし、スイーツ店として創業した。創業後6年間は自店舗のみでの販売であったが、7年目からはインターネット販売を開始し売上げは年々拡大していったものの、最終利益のマイナスが続き、利益率向上が課題となっていた。そこで、原価・経費管理の徹底による利益改善と収益性の高い新規事業への取り組みが必要であると考えようになった。

そのような中、久万高原町商工会の平成19年度事業として、(独)中小企業基盤整備機構の支援を受け「地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業」が実施され、研究会メンバーとして当社も事業に参加した。そこで、久万高原町の様々な地域資源

を使った商品化について研修するなかで、当社なりの新商品開発ができるのではないかとこの思いが強くなった。

その後、町内でもより高地に位置する水田の、周



久万清流米栽培地

辺の農薬散布の影響を全く受けない立地条件を活かし、除草剤を一度散布する以外は化学合成農薬・化学肥料を使用しないで栽培する米生産者と知り合った。消費者の安心・安全ニーズに応え、愛媛県が指定した地域資源である水稲の活用策として米粉での商品化を考えるようになり、交渉の結果、その生産

者から直で米を仕入れることができることとなった。

具体的な商品として、当店既存商品の中で一番人気があり、差別化が図りやすいチーズケーキを選定し、試作品開発をスタートさせた。

## ●事業概要

契約した生産者から直に特別栽培米を仕入れ、地元の米穀店にて米粉に挽いてもらい、米粉を生地のベースとした米粉スイーツの商品化に取り組む。

メイン商品は、口に入れた瞬間に香ばしい米粉タルトのサクサクした食感と、フワッと蕩けるチーズのまったりとしたコクが味わえる半熟タイプのチーズケーキで、飽きさせない美味しさを追求していく。冷凍で保存し、冷凍及び冷蔵で販売できるものとし、半解凍の状態アイスケーキのような味わいも楽しめるようにする。最近流行りのどっしりとした濃厚なチーズケーキにはない、フワフワ感を前面に出す。イメージとしては、口に入れた瞬間にふわっと溶けてなくなってしまうような食感で、チーズのコクのまったりとした後味が楽しめるものとする。



米粉チーズケーキ

一人用の食べ切りサイズとし、その他にも、ベーシック・スフレタイプの商品も開発し、チーズケーキとしての品揃えを充実させ、消費者の多様なニーズに対応し、セット商品・贈答品としての販売展開も可能にしていく。

製造方法へのこだわりは、以下のとおりである。

- 小麦粉は一切使用せず米粉を主原料とし、四国カルストの牧場で生産した牛乳に県内産の卵を加え、チーズ生地を作る。その特徴は、通常の特濃タイプに比べ、あっさりとした爽やかな風味にある。
- とろとろのチーズ生地を流し込むため、適度の水分を吸収し形状を損なわない厚みの米粉タルトを、サクサク感を残し香ばしく焼き上げる。
- 半熟タイプのチーズ生地との味のバランスを考慮し、ゴワゴワ感がなく繊細な「まったり感」を味わえる最適な厚さのタルトを焼く。

その他にも、食べられる茶葉、精度の高いミニトマト、抹茶及びイチゴを使用した新しい切り口でのチーズケーキや、米粉ロールケーキ、前述した地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業で研究した香味野菜での商品化として、米粉を使った大葉マドレーヌ等の焼き菓子開発にも取り組むことにしている。



米粉ロールケーキ

## ■ 拠点の具体的な支援内容

### 1. 原価管理・利益管理手法の導入支援

まずは経営基盤の強化から支援を開始した。既存事業での収益性の改善のため、ABC分析により重点商品を絞り込み、実際に発生した商品ごとの原価計算を行い、現状の売価から粗利益率を算出し、固定費率に見合った適正値入率の設定方法についてexcelシートを使いアドバイスした。同時にむだな経費を削減し、固定費を縮減することを理解してもらった。

### 2. 地域産業資源活用事業計画の認定に向けた関係機関の協力による支援

当社はこれまで「プティクリフ」のブランド名で洋スイーツを販売してきたが、地元食材の活用と地元の高齢者の雇用確保につながる地域とともに発展する事業展開として、久万高原町にこだわった洋+和のスイーツを別ブランドで商品化したいと考えるようになっていた。

しかし、二つのブランドでの商品化や価格設定、販路開拓等のマーケティング戦略について相談対応するなかで、新規事業として地域産業資源活用事業計画の認定を受け、様々な支援を活用することを提案した。当社としても事業戦略が明確化され、マーケティング支援が受けられる同事業計画の承認を目指したいということとなった。さっそく、愛媛県商工会連合会、久万高原町商工会、(独)中小企業基盤整備機構四国支部との連携で同申請書づくりの支援体制を構築し、取り組み内容を具体化していった。

申請書づくりでの留意点として以下の項目を挙げ、対応した。

- ① 事業をスタートし継続するための、既存事業の経営基盤強化の実現
- ② 久万清流米の特質と米粉スイーツの新規性（他社との違い）の裏づけ
- ③ 久万高原町の農産物を活用した商品アイテム拡大の可能性
- ④ バイヤー、消費者への市場調査を通じた事業評価と商品改良
- ⑤ 事業の確実性を確認するための、綿密な収支シミュレーションの実施

### 3. 地域資源活用事業計画の作成支援

久万高原町商工会にて、事業方向付けからスタートし、取り組み内容を具体化していった。また、(独)中小企業基盤整備機構四国支部・四国地域活性化支援事務局のハンズオン支援として、愛媛県担当の木村プロジェクトマネージャーにも度々来県していただき関連情報の収集や、事業化のためのアドバイスを受けながら内容をブラッシュアップさせた。特に、最後の収支シミュレーションには時間を掛け、精度の高い収支計画の作成に心掛けた。

### 4. フォローアップ

当社の地域とともに繁栄する事業展開の想いと事業内容が評価され、平成21年度地域産業資源活用事業計画の承認を得られた。今後は、地域資源活用売れる商品づくり支援事業（補助金）の申請支援を行う予定としている。また、経営基盤強化としての原価管理・利益管理手法の定着化や当事業の進捗状況のモニタリング、事業化支援のためのフォローアップを愛媛県商工会連合会として行っていくことにしている。

## ● 拠点を利用した事業者の声

創業後約4年間は、パティシエに事業運営を任せ、経営にタッチしていませんでしたが、赤字決算が続くため経営の見直しを行うことになりました。しかし、原価や売価の設定は成り行き任せで経常利益のマイナスからは脱却できずにいました。また、売上げをアップさせるために楽天市場に出店しネット販売に取り組みましたが、知名度を上げるために広告宣伝費に多大な出費を行い逆に営業利益は減少する結果を招きました。

そんな時に、久万高原町商工会を通じ経営改善のための指導を受けることとなりましたが、問題点を明らかにしてもらい、その解決方法、解決に使用するexcelシートまで提供してもらい、ありがたく感謝しています。また、新たな収益源として、ずっとあたためてきた和のスイーツとか、久万高原町の特産品を使った事業についてヒアリングしていただき、事業としての整理だけでなく、「地域産業資源活用事業」の申請書づくりの支援をしていただきま

した。それにより、事業内容を詳細に明文化できたこと、収支シミュレーションも行えたこと、結果としてその承認も得られたことで、非常に充実した支援を受けられ、順調に事業のスタートが切れそうです。

今後とも、事業成功に向けて、継続的なフォローをお願いします。



田村有加店長

## Staff voice 支援に携わったスタッフの声



応援コーディネーター  
上田 保

収益性の改善からスタートした支援でしたが、相談者である田村有加氏は活力を失いつつある久万高原町を元気づける事業として、地元食材を使った新しいスイーツづくりの構想を長年あたためておられることがわかりました。

元々、田村氏は斬新な発想力を持たれており、支援を通じ様々な商品化のアイデアが出てきたことで、地域産業資源活用事業計画の申請に至った訳ですが、その前向きな姿勢と熱意が今回の同計画の承認につながったものと感じております。特に、事業内容の方向付けに当たっては、マインドマップを活用しそれを具体化され、売上げ根拠の裏づけ資料も独自に作成されるなど、スムーズに申請書づくりが進行できましたことに感

謝申し上げます。

久万高原町は、基幹産業である農林業の不振が続き、人口の域外流出、地元経済を支えた縫製業や土木建設業の不況、零細商工業者の衰退、高知自動車道開通に伴う車の通行客減少などにより、地域活力は低下し続け、高齢化率も県内最高の42.3%となり限界集落も散見される状況となっています。そのため、久万高原町商工会でも会員企業の経営改善・革新のフォローアップを進めています。「米粉スイーツ事業」で他の企業を元気づける成功事例としたいとの当社と同商工会の意気込み・バックアップに加え、愛媛県商工会連合会、(独)中小企業基盤整備機構、愛媛県との強力な支援関係ができあがったことが今回の成功要因だと考えています。当社の熱意と久万高原町商工会との想いが結実し、当事業が地域産業資源活用型事業として発展されますことを願っています。